

(2024年12月4日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎 英子/委員長 池田 浩子

今回は、10月6日に行われた口腔顔面痛治療実践セミナー2024について広島大学病院歯科麻酔科の大植 香菜先生に報告していただきます。

## 口腔顔面痛治療実践セミナー2024 参加報告

広島大学病院 歯科麻酔科 大植 香菜

2024年の10月6日に、九州大学歯学研究院研究棟講義室にて、初めての試みであるという『口腔顔面痛治療実践セミナー2024』が開催された。私はこの2月に日本口腔顔面痛学会へ入会したばかりであり、口腔顔面痛分野に関してはまだまだ初心者である。しかし、日本口腔顔面痛学会の素晴らしいところは、勉強会やセミナーがとても充実しており、初心者にも非常に優しいところである。私は入会后、2024年2月に開催された口腔顔面痛精神医学セミナーへの参加から始まり、7月の口腔顔面痛ベーシックWEBセミナー、9月の口腔顔面痛臨床推論実習セミナーに参加し、基礎から応用まで幅広く学習することが出来た。そして、この度治療の引き出しを増やすセミナーの第一弾と銘打った『口腔顔面痛治療実践セミナー2024』が開催されるとのことで、すぐに参加を決めた。対面での講義、グループワーク、実習と多岐にわたるプログラムを満喫してきたので報告する。プロローグとして懇親会も前日に企画されていたが、残念ながら私は参加できなかった。

当日、まず午前中は講義とグループワークによる『慢性疼痛患者への心身医学的対応』について学んだ。

### 1. 慢性疼痛患者への心身医学的対応

#### ① 柴田 政彦先生（奈良学園大学）による講義【臨床心理学に基づいた診療スキルの改善方法】

慢性疼痛患者を診る上で必須の診療スキルについて、豊富な臨床経験に基づく大変有意義な講演であった。世界では当たり前医療従事者へ教育されてきた「臨床心理学」に関して、近年ようやく学生の教育カリキュラムへ組み込まれるようになったが、それまでは臨床心理学に関する講義は一切行っていなかったのが日本の現状である。そのため、日本の医師、歯科医師は精神・心理に対する理解が十分ではなく、患者へ間違った対応をしているものが多くいる。治療効果としては、患者自身の要因が6割、患者と医師との関係性が3割、治療法が1割で、どんな介入をするかは実は結果にあまり影響しないとのこと。そのため、患者と良い



講義されている柴田先生

信頼関係を作ることが治療を行う上では非常に重要である。柴田先生の講義により、処方や処置による治療よりも、まず、患者との関係づくりを行うための対応スキルを学び、習得しないといけないと感じた。

#### ② 慢性 OFP 患者への訴えに対する対応についてのグループワーク

- ・ この痛みは治らないのか？
- ・ 長期休暇の間に痛くなったら時はどうしたらいいのか？
- ・ もっとよく効く薬はないのか？
- ・ せっかく遠くから来たのに何も無いのか？痛みがあるのに何も無いのか？

以上4つのテーマに分かれ、グループワークを行った。柴田先生の講義を参考に各グループでこのような質問を患者にされたとき、どのような返答や対応をしたら良いのかを話し合い発表した。どの質問もよくありそうな質問ではあるが、どう応えるのがよいのか考えることは私にはなかなか難しかった。



グループワークで発表中

しかしグループワークの利点で、他施設の先生方の意見やそれぞれの施設での現状などをお互いに話すことにより、テーマに対する対応を一緒に考えていけた。またファシリテーターの先生からアドバイスを頂きながら、グループで意見をまとめ発表を行った。他テーマのほかのグループの発表に関しても、様々な考えを聞くことができ非常に勉強になった。

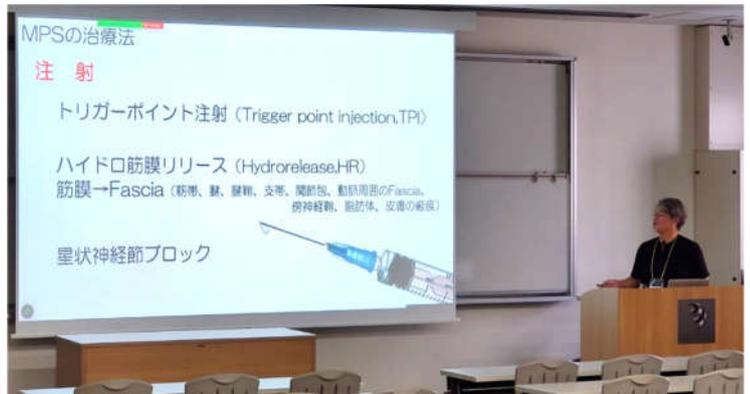
お昼休憩をはさみ、午後はトリガーポイント注射と超音波エコーハンズオンが行われた。

## 2. トリガーポイント注射と超音波エコーハンズオン

### ① 椎葉俊司先生（九州歯科大学）による講義

#### 【筋・筋膜性疼痛症候群の治療 超音波ガイド下トリガーポイント注射とハイドロリリース】

筋・筋膜性疼痛に関する基礎的な話から、薬物療法や注射による治療法などの基本を講義していただいた。トリガーポイント注射やハイドロ筋膜リリースの方法に関する講義では、貴重な多数の動画（トリガーポイントの触診、関連痛の誘発、トリガーポイント注射の手技、muscle twitch、超音波エコーを用いたハイドロ筋膜リリースなど）を実際に見ながらの学習であったため、その後続くハンズオンへと移行しやすかった。



講義されている椎葉先生

### ② ハンズオン

#### ・ 咬筋トリガーポイント注射（模型にて）

まずは相互でトリガーポイントの触診実習を行った。村岡 渡先生（川崎市立立井田病院）のご指導の下、咬筋や胸鎖乳突筋、僧帽筋のトリガーポイントをお互いにぐりぐりと確認。力加減がなかなか難しい。そして痛い。私は関連痛までばっちり再現された。そして次に模型を用いて、トリガーポイント注射の練習を行った。



トリガーポイント触診の相互実習

・ 超音波エコーでの筋観察（相互実習）

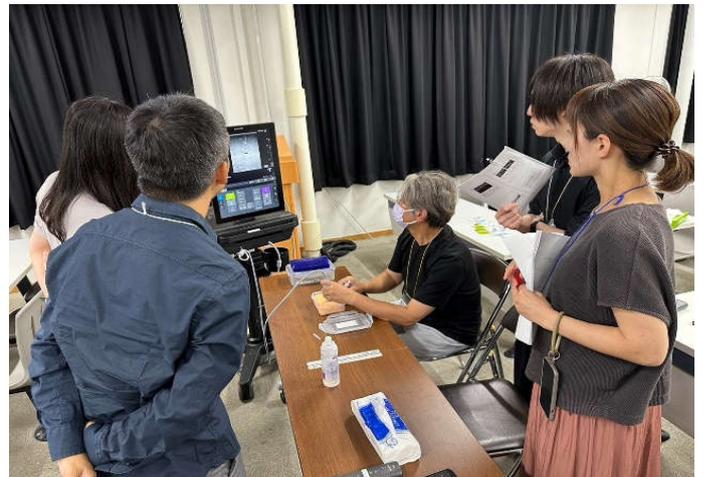


超音波エコーでの筋観察相互実習

こちらのブースでは超音波エコーを用いて相互に筋観察を行った。咬筋や胸鎖乳突筋、僧帽筋などを実際に相互で超音波エコーをあて確認していった。左合 徹平先生（九州歯科大学）にエコーのあて方や、画像の見方を丁寧に教えていただいた。実際にエコーを動かし筋観察をすることは非常に勉強になった。食いしぼりが酷く先日上顎臼歯が破折した私の咬筋の筋膜はバリバリに重責していた。日頃のストレスをここでも実感することとなる。

・ 超音波エコーでの静脈描出および確保実習（模型にて）

最後のブースは、超音波エコーを用いた静脈描出と確保の実習であった。平行法や交差法でのアプローチの仕方や、針先をエコーで確認するプローブの動かし方などを椎葉先生のご指導の下、実際に模型で実施した。そして Fujifilm 社の最新の超音波エコーに驚かされた。画像も非常に鮮明に描出可能であった。さらにタブレットに画像表示可能なワイヤレスタイプも使用させてもらったがコンパクトでとても使いやすい。ぜひとも外来に1台購入してほしい。



超音波エコーでの静脈描出および確保実習



全員で集合写真



参加した広島大学のみんなと

対面でのセミナーという形式を最大限に生かした、非常に有意義なセミナーであった。WEB ではどうしても理解が追いつかない場面や、疑問に思うことなどを解決できないままになってしまうことが多いが、その場でお話しし、質問することができ、また他施設の先生方とも意見交換することでより理解を深めることができると感じた。ハンズオンに関しては、教科書レベルでは知っていることも、実際に手を動かし体験できることは学習としても非常に効果が高いと感じた。

---

## 【大植 香菜 先生のプロフィール】

### 【略歴】

- 2009年 広島大学歯学部歯学科 卒業
- 2010年 広島大学大学院医歯薬総合研究科 歯科麻酔学 入局
- 2015年 広島大学大学院医歯薬総合研究科 博士取得
- 2019年 広島大学病院 歯科麻酔科 助教



### 【資格】

- ・日本歯科麻酔学会 認定医・専門医
- ・日本障害者歯科学会 認定医

### 【自己紹介】

広島生まれの広島育ち、広島から出たことがない生粋の広島人。二人の子を持つ母であるが、仕事が忙しすぎて子育て・家事全般は旦那に任せっきり。以前より日本口腔顔面痛学会へ入会したいと考えていたが、このたび区切りの良い年齢となったため、2024年の2月から新たに日本口腔顔面痛学会の会員となる。歯科麻酔歴は長くなってきたが、ペインに関してはまだまだ知識が追いついていなく、これから各種セミナーや学術集会などへの参加を通して知識を深めていければと思う。

---

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: [jsop-service@onebridge.co.jp](mailto:jsop-service@onebridge.co.jp)